

第3種郵便物認可

徳島市の生光学園高校2年吉田愛乃助さん(17)が、バイクレースで快進撃を続けている。昨年11月22日に日本のモータースポーツの聖地、鈴鹿サーキット(三重県鈴鹿市)で行われた「鈴鹿サントー

ロードレース」の最終節で、初出場にして39人を抑えて優勝。完走が目標だっただけに、本人も周囲も「まさか」と驚く。さらなる大舞台を見据え、技能の向上に取り組んでいる。

バイクレースで快進撃

生光学園高2年の吉田さん

小柄な選手が多いモータースポーツ界にあって、吉田さんの身長は170センチを超える。2019年までは思うように結果が出せず苦しい時間を過ごしたが、20年に入って250ccから600ccにクラスチェンジし、元トップレーサーの武石伸也さんの指導を仰いで素質が開花した。

冷静な分析力とコーナリングでぎりぎりを攻める闘争心の強さが持ち味。レース中の最高速度は時速250キロにも及ぶが、吉田さんは「リスクを恐れながらも高い集中力を保ち、攻めるときには限界まで攻める」と力を込める。北海道の十勝スピードウェイで昨夏開かれた十勝ロード

聖地・鈴鹿 初出場V

闘争心と冷静さ武器 「夢は世界」

レースシリーズでは、市販車ベースの車両を使ったST600クラスに初挑戦ながら優勝。以降3戦は全てコース記録を塗り替えた。21年はシリーズを通して鈴鹿でのレースに挑む。

そこで好成績を挙げれば、その先にあるのは国内最高峰の「全日本ロードレース」。吉田さんは全日本の舞台に立つ自分を想像し、逆算して今の自分が何をすべきかを常に意識してトレーニングを重ねている。

吉田さんが初めてバイクに乗ったのは3歳のとき。父の勧めで徳島カイトランド(吉野川市)のコースを走った。当初は習い事のような感覚だったが、小学6年生の夏休みに通った鈴鹿レーシングスクールの本気でレースに向き合うライバルの姿を目の当たりにし、自分も同じ舞台で戦いたいという強い気持ちが芽生えた。

夢は世界中のトップレーサーと戦うロードレース世界選手権「motoGP」への出場。「やる以上は頂点の景色を見たい。強いだけでなく、モータースポーツの面白さを多くの人に伝えたい」と意気込んでいる。(田尾聡)



鈴鹿サントーロードレース最終節で優勝した吉田さん
徳島市住吉1